

# 住民の生活における狩猟採取の位置づけ - 中国・内蒙古自治区ホルチン沙地を事例として -

山下真里・土屋俊幸（東農工大院）

## 1. はじめに

中国で砂漠化した土地の拡大のスピードは年々増している。砂漠化の主な原因は過耕作や過放牧で、その他に薪炭材の伐採や野生動物の狩猟等の狩猟採取も挙げられる。住民は自然資源に依存した生活を送っており、その利用は習慣として定着している<sup>(1)</sup>。よって、自然環境の保全・修復を行うためには、このような住民と自然とのかかわりを考慮することが重要であるが、一方で砂漠化地域の住民による自然資源利用の性格は変化しているようだ<sup>(2)</sup>との見方もある。

そこで本研究では、住民の狩猟採取による自然資源利用に着目し、農牧業を営む住民にとって、現在狩猟採取が果たす役割を明らかにする。そのためにまず、農牧業を通じた住民の生活実態を把握し、続いて民族や生活習慣、経済状態の違いによる自然資源利用の違いを明らかにする。調査は、砂漠化が深刻な問題である内蒙古自治区ホルチン沙地内の通遼市庫倫旗W牧場の第2分場と第3分場を対象とし、2005年9月～2006年9月に実施した。

## 2. 調査方法

農牧業における生活カレンダー：各調査地から経済状態の異なる2世帯を選出し、専用の用紙に1日の農業・牧畜業の作業内容および作業数、作業時間、作業地を記入してもらった。記録期間は2005年9月～2006年9月の1年間とした。

アンケート調査：2006年8月～9月に、主な構成民族が漢族の第2分場と蒙古族の第3分場で各々総世帯の2～3割にあたる30、27世帯を無作為抽出により選出し訪問面接式で行った。アンケート項目は1年間に狩猟採取で得た自然資源の種類、利用量、利用地、利用時期とした。

## 3. 結果と考察

当地域の生業は半農半牧で、主な耕作物はトウモロコシ、大豆、所有家畜は牛、豚となっている。5月～11月の農繁期は農業、農閑期は牧畜業を中心に行っており、1年中忙しい生活を送っている。狩猟採取については、狩猟をしない家庭が両分場合わせて87.7%と高く、また採取は、防風林のポプラなど栽培した資源の利用が高くなっていることから、野生の自然資源の利用が少ないことがわかった。こうした傾向は、耕作物の収量が第3分場よりも高い第2分場に多く見られ、ある程度の経済力をもった住民の生活にとって野生の自然資源の狩猟採取は重要度が低くなってきていると考えられる。

## 4. 引用文献

- (1) 雲山蘇「自然環境保護における地域住民参加の条件と課題」『独立行政法人国際協力機構客員研究員報告書』国際協力総合研究所, 2004年
- (2) 山下真里「内蒙古ホルチン沙地における地元住民の自然資源利用とその変遷」『第117回日本森林学会大会講演要旨集』2005年,pc06

(連絡先：山下真里 50004537021@st.tuat.ac.jp)